

37.「命の時間」

2011年5月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私たちはどのくらい生きる時間を持っているのかはだれも分かりません。ただ、日本人は平均して 85 歳くらいまで生きることが出来るという統計があるだけです。自分がこの平均値に到達できるかどうかは誰にもわからないことです。人間の命の時間を 80 年とするなら、これが長いのか短いのかそれは各々の見解に任せたいと思います。

子どもたちの意識の中には生きるということの概念はまだ育っていないと思います。自分が毎日過ごしている時間は当たり前のものであり、その時が楽しかったのか、そうでなかったのかが、そのことが子どもたちにとっては大きな問題になっています。子ども時代は時間の経過が遅く感じられ、年をとるに従って時間の経過がとても速く感じてしまいます。私の中でも幼児期、少年期、青年期が人生の大部分を占めていて、壮年期は意外と一瞬で終わった感じがするものです。私は今年で 60 歳になります。もうすでに老年期になっていますが死を迎えるまでの時間どのように生きるのか、今その体験中なのです。

子どもたちが自分の人生をどのように生きたいのかという意志は絶えず変化しています。幼児期は現実と夢が同じ意識の中で自分の行動を決定づけています。アニメのヒーローになりたいということを子どもたちは夢としてではなく、現実の目標として生きて行こうとしています。その夢が徐々に現実社会の組織に沿った役割に変化してしまうのです。今私は老人となってしまいましたが、この変化をなんとなく心寂しく感じられてしまいます。現実には難しいと思える子どもたちの夢を諦めさせるのではなく、子どもたちが努力し挑戦出来るような世の中になってほしいと希望しています。自分の生まれてきたのは、夢を現実にするためなのだということを、子どもたちが意識できるなら、命の時間が短い、長いなど大きな問題ではなくなるでしょう。

人間は生きるとはとても大切なことですが、そのことだけに執着してしまいました。自分の命だけがこの世で最も尊いものであるかのように信じ切っています。生き続けることが人生の最大の目標のように捉えています。生き続けたいという意志は生き物としての本能ですからそれは当然のことですが、私たちがこの世に生まれ、生きて行くことの使命は自分を生かすということより、他者を生かすために自分の命が与えられているのです。未来に命を繋げるために今を生きているのだと思います。だから人の命は尊いのです。それが自分だけのために生きようとして他者を排除してしまった時、人はこの世で有害な生き物になり淘汰されてしまうでしょう。この地上の命はすべて繋がって循環しています。一人の命の時間は短いのですが、人の命の時間は川のように次から次へと流れています。自分ひとりが生きることだけに執着する人生をおくるのではなく、夢に向かって努力し多くの人の命を生かすことのできる子どもたちを育てなければならないのです。



《ハムスコーン》

材料 10 個分

薄力粉 200 g、卵 1 個
ベーキングパウダー 7 g、
無糖ヨーグルト 50 g、
ハム 100 g、バター 80 g
玉ねぎ 50 g、塩少々

作り方

- ① 卵は割ほぐす。バターはサイの目に切る。ハムと玉ねぎは千切りにする。
- ② ボウルに薄力粉、ベーキングパウダー、塩を入れバターを加えてすり混ぜる。
- ③ 残りの材料をすべて加えて良く混ぜる。
- ④ 10 等分にして、オーブンシートをしいた天板で焼く。

